

5 高等学校における道徳教育（平成25年度広島県教育資料から抜粋）

道徳教育は、豊かな心を持ち、人間としての在り方生き方の自覚を促し、道徳性を育成することをねらいとする教育活動であり、社会の変化に対応して生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもっている。

高等学校における道徳教育は、人間としての在り方生き方に関する教育であり、公民科やホームルーム活動を中心に各教科・科目等の特質に応じ学校の教育活動全体を通じて、生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探求し豊かな自己形成ができるよう、適切な指導を行うことが求められている。

特に、高等学校においては、生徒の発達段階に対応した指導の工夫が求められることや、小・中学校と異なり道徳の時間が設けられていないこともあって、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の指導のための配慮が必要である。「高等学校における道徳教育推進のポイント」を踏まえ、学校の実態や生徒の発達の段階等にふさわしい教育活動を行うことが大切である。

<高等学校における道徳教育推進のポイント>

- 教職員間での道徳教育に係る共通理解を図る。
 - 計画的・継続的な指導を行うための組織づくりを行う。
 - 推進上、基軸となる機会と場を設定する。
 - 固有の指導内容・指導方法、教材を開発する。
- ※小・中学校の道徳教育を基礎として
- 自己の生き方を社会とのかかわりで探求させる。
 - 各学校の特色を生かして重点的な道徳教育を展開する。

高等学校における教材の開発やその活用（例）（県立尾道北高等学校の取組）

尾道北高等学校では、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の中核的な指導の場面となる特別活動〔ホームルーム活動〕等において、生徒に人間としての在り方生き方を主体的に探求させる道徳教育の推進をめざしている。

【具体的な取組事例】

○教材の開発

教材開発に当たっては、学校行事である体育祭に向けた1ヶ月にも及ぶ「応援合戦づくり」での協働的な学びを特別活動〔ホームルーム活動〕で活用できるよう約10分に編集したDVDを作成した。



応援合戦の様子

○教材の活用

活用に当たっては、体育祭の応援合戦づくりでの協働的な学びの振り返りを通して、自分はどう生きるべきか、生徒自身に問いかけさせることを主眼に、話し合い活動の工夫を取り入れた学習指導案を作成し、第1学年で授業を実施した。

話し合い活動の工夫として、付箋紙を使った意見交換の場では、意見の出し合いで収束させるのではなく、活動の意義や今後の高校生活の在り方などについて、より深く討議させるために4人1グループで行うこととした。



意見交換の場面